

年度:2020年 LOM番号:342

【褒賞申請書】

事業名称	IDEA・LAB CHALLENGE
カテゴリー	最優秀LOM経済開発プログラム

申請LOM	東北地区山形ブロック酒田青年会議所
LOMの人数	68名
理事長名	佐藤 愛
担当者名	佐々木大祐
担当者携帯番号	08033393412 担当者Mail sasake0724@gmail.com
事務局住所	山形県酒田市緑町19-25
事務局TEL	0234249192 事務局FAX 0234228438

本事業の参加者	会員数	50名
	関係者数	6名
	一般参加者数	70名
事業実施に至る背景 400文字程度	私たちのまちは生産年齢人口の高齢化と若者の転出などで「人財」に係わる様々な問題を抱えており、特に若者の地元離れには緊切な対応が必要です。主な理由としては大学進学など学ぶために県外に流出し、そのまま県外で就業する悪循環にあります。地域に戻りたくない訳ではなく20~25歳でUターンを志願する若者は45.1%います。しかし県外企業との働き方の違いや雇用に対するギャップがあり、戻る決断を渋る傾向にあります。若い時に地域の魅力や特性を知り、啓発する機会を提供するとともに、若者が望む働き方を地域企業が理解し、定着やUターンしやすい環境が必要です。	
事業目的 400文字程度	対外目的 若者:IDEA・LAB生の郷土愛を育み、地域に定着させることを目的とします。 地域:地域の若者が望む働き方を理解するとともに定着しやすい環境にしていくよう行動喚起させることを目的とします。	

<b>SDGsの該当項目</b>	<b>8 働きがいも経済成長も</b> <b>11 住み続けられるまちづくりを</b> <b>17 パートナーシップで目標を達成しよう。</b>
------------------	--

<b>事業概要</b>  400文字程度	<p>事業名【2019年度9月公開例会 IDEA・LABチャレンジ】</p> <p>◆事業準備プロセス。</p> <p>IDEA・LABCHALLENGE生募集 3月～5月          応募数14名→7名選抜 大学生4名 高校生3名          育成計画5月～9月本番まで。</p> <p>【育成詳細】</p> <p>LOMメンバーと打合せ→計22回。市長訪問3回。気合セミナー1回。7月事業就職説明会参加企業74社との交流。現地調査</p> <p>9月公開例会</p> <p>【第一部詳細】 ◆テーマ 若者の啓発！若者が望む地域の在り方          大学生・学生と企業をつなぐ居酒屋プロジェクト。          高校生・地域資源「飛鳥」を活用した婚活イベント。</p> <p>【第二部詳細】 ◆テーマ 他県の成功事例を地方へ導入。働き方改革</p> <p>【講師】酒田市長政策参与 平尾清様</p> <p>【講演テーマ】「働き方改革を地方活性化の契機にしよう！」</p> <p>講師は共通の想いがあり、無料で引き受けてもらいました。          会場費を抑えるため2月に講習を受け会場物使用資格を取りました。          外部団体が事業継承しやすいように最低限の予算で実施しました。          プレスリリースを行い広くブランディングできました。</p>
<b>開催期間・ タイムスケジュール</b>	<b>IDEA・LABCHALLENGE生募集期間3～5月</b> <b>IDEA・LABCHALLENGE育成計画5月～9月</b> <b>IDEA・LABCHALLENGE9月公開例会発表9月30日</b> <b>発表内容事業化2020年1月～現在法人化し活動中</b>
<b>開催場所</b>	会場：山形県酒田市文化センター 住所：酒田市中央西町2-59
<b>事業区分</b>	新規
<b>公益・共益区分</b>	公益事業
<b>事業総予算・収支</b>	予算計：90,000円 決算額：89,460円 会場費：15,120円 看板費：29,160円 ポスター広報費 45,360円

	<p>予備費 360円          支出計:89,460円</p>	
協力団体	共催	
	協賛	
	後援	<p>荘内銀行、山形銀行、きらやか銀行、北都銀行、鶴岡信用金庫、商工組合中央金庫、山形保証協会、酒田市、遊佐町庄内町</p>
	その他	
事業対象者	<p>後援団体、一般参加者</p>	
<p>行動          (ACTION TAKEN)          400文字程度</p>	<p>◇事業の調査・・近隣の高校や大学へ訪問し県外と県内就業の割合を確認。試験的にアンケートを行い、地域に対する若者の想いを調査。</p> <p>◇立案・・地域にいつかは戻ってきたいと回答する若者(高校生)は50%を超えていました。若者が地域に対する不安を理解し、若者が地域に住み続けるために求めていることは何か。そのIDEAを啓発できる環境を提供し実行に移し郷土愛を高めていく。</p> <p>◇会議の流れ・・3月審議。9月例会本番          本番に向け、委員会メンバーと学生でMTG。現場視察、企業訪問。3度の中間発表会を実施。市長、町長面談。</p> <p>◇実施活動・・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生より地域×イベントまたは起業について第一IDEAを元に委員会メンバーとブラッシュアップしました。</li> <li>・地域企業とタイアップするため企業訪問や別事業(BESTCHOICE就職説明会)に参加した74社からIDEAを頂くことと同時に「地域の人」との交流を図り若者の郷土愛を育むことを実施しました。</li> <li>・地域に必要とされている人財だと自覚してもらい、本事業に取り組む覚悟を醸成するため市長、町長と意見交換する機会を提供しました。</li> <li>・3度の中間発表では現役、OBから厳しい意見を頂き、それでも諦めずに意見を反映させ若者の成長になりました。</li> </ul>	
<p>結果          (RESULT)</p>	<p>(目的がどのくらい達成できたか、上記の結果の想定外の結果、結果の確認方法、検証結果を箇条書きで記載)</p> <p>1. 目標がどのくらい達成できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の継続発展のため行動喚起できる人財へ変革しました。</li> <li>・県外希望だったIDEALAB生が地域就業を決意してくれ、定着するようになりました。</li> <li>・地域企業の方も多く参加され、アンケートから働き方を変えていく必要があると90%の回答がありました。</li> </ul>	

	<p>・若者の考えを理解してもらい積極的に地域の若者を雇用すると行動喚起につながりました。</p> <p>予想外の結果(波及)</p> <p>・若者の IDEA を実行するため法人化しました。地域と学生をつなぐプロジェクト短期シェアリング事業が誕生しました。学生と連動して現在も稼働しています。</p> <p>若者だけではなく子育て世代、副業希望、主婦、シニア世代と対象を広げ住みやすい継続可能な地域を目指す。先日行われた初めての事業説明では50名を超える人が参加され地域の変革になってきました。</p>
	<p>(この事業が与えた地域社会への影響を記入)</p> <p>SDGs11の住み続けられるまちづくりを目指すことを若者がしっかり認識し行動してゆく覚悟をもったことです。</p>

<p><b>地域社会への影響</b></p> <p>400文字程度</p>	<p>この事業後に取材をさせてほしいと別の若者から青年会議所へ問い合わせがありました。今までこのような問い合わせしてくるなどありませんでしたが、興味を示し自ら行動に移してくる若者ができました。また人口減少を若者ととも解決していこうと市の方から補助金をいただき事業化になりました。今の地域問題点にJCが歩み寄ったことで大きな展開へと変化しています。</p>
<p><b>LOMへの影響</b></p> <p>400文字程度</p>	<p>(この事業がLOMに与えた影響を記入)</p> <p>今まで単年度制ということもあり新規事業は継続性がなく単発事業で終着していました。今回の事業を通じて青年会議所活動から収益事業へ発展したことやSDGsの目標に向けた一歩を行動に示すことで、メンバーの士気や視点に大きな広がりがあります。また関わりなかった行政との部署と連携したことでマッチングの幅が広がり、ブランディング向上につながりました。今年はSDGsを更に推進することを当時担当副委員長が委員長となって継続活動しています。</p>
<p><b>事業の長期的な影響</b></p> <p>400文字程度</p>	<p>(この事業が期待される長期的な影響を記入)</p> <p>現在の酒田市は10万人です。10年の間で7万人まで減少する予測となっています。人口減少を食い止めるために様々な施策を打っていますが、なかなか難しい現状です。私たちは未来を想定し7万人になっても継続可能なまちづくりを描いています。子育て中の女性も若者も住みやすい地域に。人財不足からくる地域企業の事業拡大への躊躇。悪循環を好循環にする地域の新たな形。地域では初めての事業ということもあり説明会で多くの方が参加しました。住み暮らす方々が共感され、広く発信していくべきだと参加者から声を頂きました。Active citizen が期待されます。</p>

<p><b>考察や推奨</b></p> <p>400文字程度</p>	<p>(検証を踏まえた次の行動を記入)</p> <p>地域の方々のJCのイメージは継続事業(まつり・花火など)のイメージが非常に強く、紡いできた歴史がLOMアイデンティティを構築しています。しかし会員減少につれJCだけのマンパワーでは難しくなっています。今後継続してきくためにも今、力を入れている行政の問題や今悩んでいる一般の方の声にも耳を傾け寄り添った形で協働し、事業構築していくことが青年会議所活動に巻き込むきっかけになると思います。</p>
<p><b>改善点</b></p>	<p>(改善点があれば記入)</p> <p>大学生は県外からきている生徒が多いです。今回の事業を生まれ持った故郷で実施したいといったが産生もいました。小さなことですが、酒田に若者を定着させる目的ならば、酒田が故郷の方をターゲットにするべきです。</p>
<p>JCI活動計画の推進</p> <p>JCI VISION活動計画の推進</p> <p>JCI MISSION活動計画の推進</p>	<p>(事業を通じて、行ったJCIに関する推進活動を記入)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者とのマッチング</li> <li>・市民主導になり継続事業へ発展</li> <li>・行政各団体との関わり</li> <li>・学生との協働事業のプレスリリース</li> <li>・話題性が報道され波及</li> <li>・明るい未来を描ける若者の育成</li> </ul>
<p><b>添付資料</b></p> <p>PDF資料2MB、5ページ以内</p>	<p>(事業風景写真、新聞記事、参加者や協力者から寄せられた感想文 など)</p>

## <地域の若者のIDEAを大人に啓発せよ>

## <IDEA・LAB CHALLENGE>

一般社団法人酒田青年会議所は2019年9月30日月曜日に「<IDEA・LABCHALLENGE>」を<酒田市文化センター>にて行いました。詳細の内容につきましては、下記内容をご覧ください。

この<IDEA・LABCHALLENGE>は<地域に若者を定着させること>を目的として開催されました。<地域に夢を持ち地域に残る決断をしてくれた>という結果、目的を達成する事ができました。

IDEA・LAB CHALLENGE	
<p>詳細な事業内容</p> <p>期日:令和元年9月30日</p> <p>会場:酒田市文化センター</p> <p>(事業内容)</p> <p>若者がこの地域に求めるものはなにか。この地域に定着してくれるには何が必要か。どんなことに熱がでて取り組みたいのか。若者から直接IDEAを出してもらおう!</p> <p>高校生、大学生を対象に青年会議所が考えた6か月のプログラムから事業計画をたて地域の大人に啓発し、実行に移すプロジェクトである。</p>	  